

## 在宅医療・介護連携に関する相談支援について

### 1 在宅医療・介護連携に関する相談支援の概要

#### (1) 目的

地域包括支援センターを在宅医療・介護連携を支援する相談窓口として位置付け、高齢者本人や家族、地域の医療・介護関係者からの在宅医療・介護連携に関する相談を受け、必要に応じて、連携調整や情報提供等により、その対応を支援する。

#### (2) 対象者

高齢者およびその家族、医療・介護関係者

#### (3) 実施者

地域包括支援センター（基幹型を含む）

#### (4) 実施時間

地域包括支援センターの開所時間内

### 2 平成 30 年度の取組

#### (1) 研修会

相談支援業務の開始にあたり、地域包括支援センター職員を対象とした研修を 2 回開催。

##### 第 1 回

ア 開催日時 平成 30 年 9 月 7 日（金）午後 6 時 15 分～8 時 15 分

イ 場所 千里市民センター 大ホール

ウ 内容 高齢者の精神疾患について

講師：大阪大学大学院医学系研究科精神医学教授 池田 学氏

エ 参加者 地域包括支援センター職員等 53 名

##### 第 2 回（予定）

ア 開催日時 平成 31 年 3 月

イ 場所 未定

ウ 内容 病院内での連携のしくみについて

講師：医療機関の地域連携担当看護師

(2) 相談支援業務の実施状況 (平成30年10月～12月末まで)

ア 相談件数

全相談 5,047 件のうち、在宅医療・介護連携に関する相談は 504 件。

① 相談方法

	件数	割合 (%)
来所	12	2.4%
電話	410	81.3%
訪問	69	13.7%
その他	13	2.6%
計	504	

② 相談者

	件数	割合 (%)
本人	12	2.4%
夫	2	0.4%
妻	12	2.4%
息子	3	0.6%
娘	12	2.4%
兄弟姉妹	1	0.2%
子の配偶者	1	0.2%
同居者	1	0.2%
知人	2	0.4%
民生委員・福祉委員	2	0.4%
行政機関	6	1.2%
ケアマネジャー	5	1.0%
医療機関	444	88.1%
認知症初期集中支援チーム	1	0.2%
計	504	

(再掲)医療機関内訳

	件数	割合 (%)
地域連携担当者	371	83.6%
医師	24	5.4%
看護師	30	6.8%
その他	19	4.3%
計	444	

### ③ 支援内容

	件数	割合 (%)
入院に関する支援・情報提供	24	4.8%
転院に関する支援・情報提供	25	5.0%
退院に関する支援・情報提供	255	50.6%
受診に関する支援・情報提供	42	8.3%
治療・疾患に関する支援・情報提供	39	7.7%
服薬に関する支援・情報提供	11	2.2%
口腔ケアに関する支援・情報提供	0	0.0%
食事・栄養に関する支援・情報提供	3	0.6%
看取りに関する支援・情報提供	8	1.6%
その他	97	19.2%
計	504	

### イ 相談内容（一部抜粋）

1	相談者	地域連携担当者	相談分類	退院に関する支援・情報提供
	内容	胸部痛で入院中。本人は姉と二人暮らし。姉、認知症疑いあり本人と姉とで包括に相談に行こうと思った矢先の入院だった。退院後に家事支援が必要。姉が病院に面会にきた際に相談にのってほしい。		
2	相談者	地域連携担当者	相談分類	治療・疾患に関する支援・情報提供
	内容	通院中の患者について。要支援 2。ストマを増設したが自己管理できず、娘が本人宅へ訪問してストマ管理している。娘も対応困難になりつつあるので介護保険で訪問介護の利用を調整してほしい。		
3	相談者	地域連携担当者	相談分類	退院に関する支援・情報提供
	内容	介護保険未申請。末梢性眩暈で入院中だが、退院日が決定。独居。外出や家事が困難と考えられるので、すぐに訪問介護の調整をしてほしい。		
4	相談者	地域連携担当者	相談分類	服薬に関する支援・情報提供
	内容	脳症疑いで入院中。退院後服薬管理が必要だが、妻は理解が乏しく難聴のため管理は難しいと考えられる。薬局による薬の管理や介護保険の申請が必要なので支援してほしい。		
5	相談者	妻	相談分類	転院に関する支援・情報提供
	内容	介護保険申請中（要介護 5 と想定）。本人の身体状況が芳しくなく、病院を転々としている。年金生活のため経済面が苦しい。特養は胃ろうがあるので断られた。妻も脳腫瘍と眼底出血があり介護は難しくなってきた。娘は子育てもあり手伝いをもらえる状況にない。どうしたらよいか。		